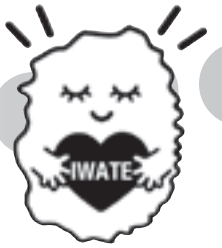


岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数／会員数 709 名（2013.9.18 現在）

編 集 発 行／「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL：090-2604-7918 FAX：019-653-6447

郵便振替口座／02250-1-60580 E-mail／hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage（岩手ホスピスの会通信）／<http://hospice.sakura.ne.jp/>

No. 46
2013年 10月

「おいしい!」と思えること。それが大切♪

8月31日（土）盛岡市総合福祉センターで「がん患者さんのための栄養公開講座」を県立胆沢病院管理栄養士・蛇口真理子さんを講師に開催しました。

およそ 30 名の参加者とがん治療中の食事について一緒に考えました。

今回で 4 回目の栄養講座となりましたが、回を重ねるごとに内容が充実していると感じます。今回の内容としては、緩和ケアと食事についてなど、がん患者さんにとって食事がいかに重要なものかを、たくさんの例をあげながら説明しました。食事とは、食べられる時は治療中であれば治療へのファイトとなる。味わう喜びを得られる貴重な機会。食卓を囲むことは大切な人との時間。家族、友人にとっても温かい思い出になる。何を食べるかも大切だが、誰と食べるかも大切。食欲低下時の食事のヒント。味覚変化時のおすすめメニュー。吐き気、腸閉塞の食事。在宅での食



参加者と一緒に食事について考えた栄養講座

事のアドバイスーなど様々な場面での食事のアドバイスが紹介されました。

今回は、本当に今在宅で患者さんを看ている家族の方が来てくれ、講演の途中で涙を流しながら、聞いている方もいました。「緩和ケア」について、患者さんやご家族はもっともっと知りたいのだ、と感じる温かい会になりました。

緩和ケアの患者さんへの食事のポイント

- * 一口ずつ、味を楽しめる盛り付け
- * 口当たりのいいもの（冷たいもの、のど越しのいいもの）
- * 食べたいもの（これが一番）

心を支える

患者さんの食べたいものには……

- 大好物 ● 食べ物に込められた思い出（楽しかったこと、頑張っていた頃、子供の頃の思い出）
- 食べ物には「その人の人生が織り込まれている」。

その思いに寄り添うことは、患者さんのことを支えるだけでなく、その方の生き方を教えていただく時間。



被災地支援活動① うつりゆく陸前高田にて

「サッカーで高田を元気に!!」



3.11 メモリアル交流試合

7月20日、参議院選挙の前日、高田市内にできた仮設のグラウンドで、震災後交流が深まった現地の方々と慶応義塾大学サッカーOBによる、3・11メモリアル交流試合が開催されました。

ホスピスの会には、ドリンクや果物などのボランティアサポートの依頼があり参加しました。

4か月ぶりの高田は、市内の公共の施設が解体され、いつもボランティア前に線香をあげる旧市役所跡はすっかりさら地になり自分がどこにいるのか見失うほどです。いつもボランティアのお世話をして頂く菊池さんに、市内でお参りできる所は残っていますか？と尋ね、息子さん（25歳）と一緒に亡くなった消防団員をまつた跡地に足を運びました。



陸前高田市消防分団第一部消防屯所跡にて

その地区の消防団員22人中、亡くなった11人の名前が一枚一枚の小さな木の札に記されているのを見ただけで、こみあげてくるものがありました。ボランティアみんなで線香に火をつけ手を合わせていると、そこを管理している隣のお茶屋さんの方が声をかけてきました。

「みんな地元の長男ばかりです。家を継ぎ、地域を支えていた、高田のこれからの世代を亡くしてしまいました。まだ、市内ではみつからない人も多くいる中で、11人は家族のもとへ帰ることができました。」私たちは、そんな出来事があった土の上に今いる。

サッカーの交流試合は、50代のOB。はた目から見れば、サッカーを楽しむおじさん達。しかし、胸の中の思いは穏やかではありません。サッカーが大好きで亡くなった息子のかわりに無我夢中でボールを追いかける姿。いつまでも下ばかり向いてはいられないと走り抜ける姿。生きている者が、できることで頑張る。「サッカーで高田を元気に!!」けがもなく無事終了。

サッカーボランティア班と別行動で、仮設ボランティアは、仮設の中で病と過ごす家族を訪問。震災後、がんとう向き合い仮設で闘病するご主人と、



最近体調を崩し心臓疾患を抱える奥様。私たちは医療者ではないので、病を治すことはできませんが、小さな声に耳を傾け、心に寄り添い、ともに考える事に徹しています。4畳半が2間しかない仮設。部屋の片隅に酸素が置かれています。同行したケアマネジャー（ボランティア）とともにお話を聞き方向性をさぐりながら語りの時間を過ごしました。人はそれぞれ、様々な環境や事情をかかえ生きています。同じ形や色はなく、答えもないのかもしれません。

帰り際、奥様が「生きて待ってるから、また来てくださいね…」と手を握り、私たちの車が見えなくなるまで外で手を振ってくださいました。

かわりゆく被災地に私たちはどこまでも関わりたいのです。

被災地支援活動② うつりゆく陸前高田再訪

7月下旬、先日訪問したご家族から電話が入りました。訪問数日後、奥様は、肺に水が溜まり入院。退院後仮設で過ごすが食欲がもどらず、30キロまで減少し心配なこと、今後二人の介護をどのようにしたらいいかとのことでした。

8月24日、ケアマネボランティアと訪問。ご家族みなでお話をし、お二人一緒にデイサービスの利用、ヘルパーさんの訪問食事介護利用を提案し、相談の方法や利用手続きなどゆっくり時間をかけお話することでご家族の悩みや不安は少し解消された様子でした。また、食欲不振の原因は入れ歯が合わないことからきているようなので、訪問歯科の利用を提案。傾聴の必要性を痛感した一日でした。

仮設訪問班と別行動で、草刈り依頼を受け、

仮設近隣の敷地内に伸びた草を刈りあげました。当日は30度を超える暑さで、体力勝負。「刈っても刈っても伸びる草に高田は埋もれそうです」とつぶやく仮設の声。



被災地支援活動③ 宮城県気仙沼市にて



仮設住宅に住む女性の方たちがたくさん集まってくれました

9月8日、日本対がん協会が開催する被災地支援活動にタオル帽子講習会講師として参加しました。場所は宮城県気仙沼市・五右衛門が原運動場仮設住宅集会所。およそ130世帯450人が入居する大きな仮設住宅で、この日は同仮設の集会所に住民の方たちを招き、対がん協会によるがん予防のレクチャー、肺年齢測定、血圧測定、メンタルケアなどと同時に、当会によるタオル帽子講習会を行いました。縫ってみたい、というたくさんの女性の方々にその場で作成していただきました。用意してきた20人分のタオル帽子作成キッドはあっという間になくなり大変好評でした。

「岩手ホスピスの会」がん相談ホットライン



開設日	毎月第2土曜日 午後1時30分～4時（月により変更あり） 相談無料
場 所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子倶楽部会場（月により変更あり）
内 容	電話相談：がん全般についての相談に対応致します。 直接面談：上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

岩手県内各ホスピス現況 (2013年9月現在)

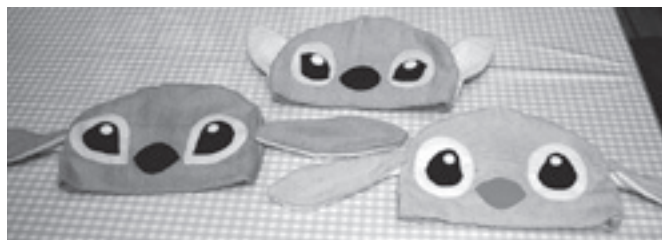
(岩手ホスピスの会調べ 詳細は各病院に直接お問合せ下さい)

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	一関市狐禅寺字大平 17 番地	北上市村崎野 17 地割 10 番地	奥州市水沢区羽田町 字水無沢 495-2
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111 (代表) 緩和ケア相談室 内線 338 川村・阿部	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
病 床 数	10 床 (全室個室)	22 床 (全室個室)	24 床 (個室 20、2 床室 2)	24 床 (個室 18、2 床室 3)	20 床 (全室個室)
ベ ッ ド	無料 8 室 有料 2 室	無料 12 室 有料 10 室	無料 17 室 有料 7 室	無料 14 室 有料 10 室	無料 20 室
ベ ッ ド 料	1 日 3,150 円	1 日 5,250 円・ 10,500 円	1 日 3,050～ 6,200 円	1 日 3,150～ 12,810 円	無料
入 院 料					一般病棟と同じ
看 護 師 数	15 名	18 名	18 名	17 名 + 補助 2 名	17 名 + ケースワ ーカー 1 名 + 看護補 助者 6 名
ホスピス医	臼木豊先生、 米山幸宏先生	旭博史先生、 畠山元先生	平野拓司先生	関根義人先生、 星野彰先生、 平賀一陽先生	菊池俊弘先生 及川司先生
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室にご 相談ください。 月～土曜 8:30～ 17:15 (担当 湊)	緩和ケア外来を受診	緩和ケア支援セン ターにお問合せ下さ い。 0191-23-3452	0197-71-1511 (入院相談他) がん相談支援室 平日 9:00～16:00	入院相談(担当:ケ ースワーカー) 後面談 入院検討会(医師、 薬剤師、栄養士、看護 師、理学療法士で構成)
審 査 日	随時	随時	随時	随時 (入院依頼があった その日に即日対応)	随時 その後ベッドが空く まで待機
ホスピス入院 平均待機者人数	院内 2～3 名 院外 0 名	0	なし	3～4 名	2 名
ホスピス入院 平均待機期間	約 1～2 週間 (時期により変動あり) 重症者優先	外来受診後、 長くて 1 週間	なし	待機期間は同院一般 病棟や近隣の病院、 連携のとれている訪 問診療で対応	1～2 週間
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとん ど (8 割以上)	盛岡市周辺の方がほ とんど	一関市周辺や宮城県 北の方がほとんど	花巻北上周辺の方が 8 割以上。その他は 水沢、盛岡南部等	奥州市周辺の方がほ とんど
緩和ケア外来	臼木豊先生・ 米山幸宏先生 診察日: 月～水・金・土 8:30～17:15 木 8:30～12:30	旭博史先生 診察日: 月・水、要予約	平野拓司先生 診察日: 月～金、要予約	星野彰先生 診察日: 月・金の午前、 要予約	菊池俊弘先生 診察日: 火・木・土
ホスピスボラ ンティアの 人数と活動	登録者 24 名 実働 7～8 名 ホスピスボランティ ア募集中 019-656-2888 4 階病棟藤原まで 都合のよい時間でよ いのでぜひ!	病院ボランティア登 録者 17 名 うち 10 名がホスピ スで活動中。 病院ボランティア募 集中	ボランティアコー ディネーター 2 名、 ボランティア 5 名 活動:ティータイム、 季節の行事	登録者 40 名 H23 年 6 月～ボラ ンティア活動開始 定期的に研修を行っ ている	現在登録者 20 名で 活動中。ホスピスボ ランティアを募集中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	名称:ひだまりの会 年 1 回開催 院外の方も参加可能 連絡先:湊、藤原	設置検討中	なし	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 3 回開催	しちせき 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 2 回開催

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2013 年 7 月～9 月)



当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008 年 6 月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで 45,060 個に上っています。帽子を作るボランティアの皆さんに深く感謝申し上げます。



患者さんからのリクエストで縫い上げたスティッチのタオル帽子

- ◆タオル帽子、縫い代まで丁寧に仕上げて下さっていて、皆様の心のこもった帽子使わせていただきます。私は 55 歳の人間ドッグで乳がんが見つかり、6 月に手術、7 月 26 日に 1 回目の抗がん剤を打ちましたが副作用がきつく、こんなにも大変なものとは思いませんでした。まだ EC 療法 4 クールその後違うタイプのも 4 クール、その後放射線とまだまだ先長いですが負けられないよう頑張りたいと思います。
(静岡県焼津市)
- ◆6 月にがんの手術を受け、現在抗がん剤の治療を受けています。これは 11 月くらいまで続くので、まだまだ先が長いです。覚悟はしていても副作用で髪が抜け始めると、抜けた髪の束、鏡にうつる自分の姿に涙がにじみました。髪が抜けはじめた頃、入院していた病院から貴会のタオル帽子を受け取りました。ケア帽子は別に用意していましたが、手作りのあたたかみに励まされました。自毛が元に戻るまで、これからの 1 年数か月、大切にに使わせてもらいます。ありがとうございます。体調を整え、治療が終わるまで、そして 5 年先まで生きていられるようがんばります。岩手の皆様のご苦労はまだまだ多いと思いますが、どうぞ負けずにいて下さい。私もがん負けられないよう生き抜きます。
(滋賀県栗東市)
- ◆脱毛のためずっとシャワーキャップのような物で凌いでいましたが、病院関係者の方とはともかく、お見舞いに来られた方々に対しては恥ずかしい思いをしておりました。タオル帽子を戴いてからはそんな気持ちもやわらぎ、それ程苦に思わなくなりました。シャワーの後なども水分を吸収してくれ、暖かいので風邪をひかずに済みそうです。これからも頑張ってください。沢山の方が救われると思います。
(東京都杉並区)
- ◆母は抗がん剤の影響で髪が抜けてしまう前に自分に合う帽子を探していたところ、がんセンターの方から岩手ホスピスの会の手作り帽子を見せていただき、こんな帽子が欲しかった!! まあステキ♡と笑顔になり本当に喜んでいました。病院帰りの車中でも“今日はステキな帽子がもらえて良い日だ。最高”と本当に喜んでいました。ありがとうございました。
(千葉県)

フェイスタオルご寄付のお願い

皆様をお願い申し上げます。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルが不足しております。できましたらご寄付のご協力をお願いいたします。なお、恐縮ですが患者さんのためにできるだけカラフルな柄物でお願いいたします。

送付先：020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 岩手ホスピスの会宛



地域に広がる緩和ケア ② ～

緩和ケアの提供の場として、今月は「緩和ケアチーム」について紹介します。「通院している病院にも『緩和ケアチーム』はあるけど、何をしてくれるのかな?」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

岩手県立胆沢病院の緩和ケアチームを紹介しますが、多くの病院で特徴を生かしながら様々な活動をしています。緩和ケアチームの活動を知ることによって患者さんやご家族にとって、緩和ケアチームが気軽に利用できるものになればいいと思います。

岩手県立胆沢病院 緩和ケア認定看護師 及川 麻希

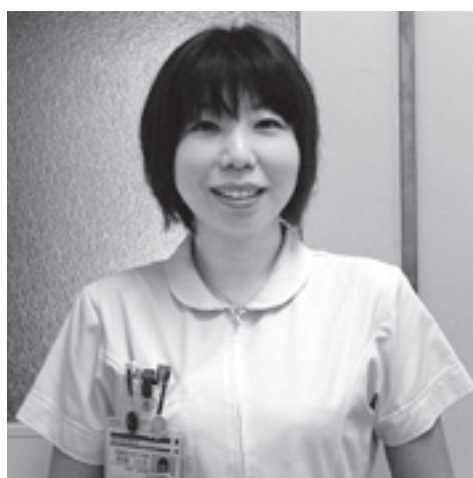
胆沢病院には緩和ケア病棟がありません。全てのがん患者さんがそれぞれの科ごとの一般病棟に入院されています。同じ病棟の中には、診断がつく前の人、がんと告知されたばかりの人、手術や化学療法などの治療を今まさに受けている人、そして終末期の方など色々な病期の方がいます。患者さん一人一人がそれぞれの苦痛や不安、悩みを抱えて過ごしているんじゃないかなと思います。そのような患者さんやご家族へ少しでも安楽に過ごして頂くために当院には緩和ケアチームがあります。

わたしは現在緩和ケアチームに所属し、病棟・外来スタッフや医師、薬剤師、栄養士など多職種と協力し緩和ケアの提供を行っています。具体的には告知後の気持ちの整理を一緒に行ったり、治療について不安や心配がある患者さんには安心して治療を続けられるように治療についての情報などをお伝えしたりしています。そしてどの時期でも患者さんやご家族が苦痛無

く過ごせるように、主治医と協力しながら痛みなどの体の苦痛症状を緩和できるように活動を行っています。

全ての患者さんやご家族に十分な緩和ケアを提供す

ることはまだまだできておりません。それでも、少しでも多くの患者さんやご家族がその人らしくすごせるお手伝いをしていきたいと思っています。もし胆沢病院をご利用になるときは気軽に声をかけてください。



及川麻希さん

FM横浜・音楽番組「Piano Winery～響きのクラシック」に出演

8月14日、FM横浜・音楽番組「Piano Winery～響きのクラシック」の収録に吉島美樹子事務局長がゲスト出演。タオル帽子活動、被災地支援活動について語りました。

同番組は毎週土曜18:45～19:00まで、ピアニスト・樋口あゆ子さんがクラシック音楽と地球に優しいLifestyle、音楽・水・自然をテーマに語ります。放送日は11月の予定です。皆さんもし機会があればぜひお聞きください。



左端：吉島美樹子事務局長

右端：担当DJ樋口あゆ子さん

県南3市町の子供たちの健康調査実施を求める要望書提出

9月3日岩手県庁で、「岩手県南3市町（一関市、奥州市、平泉町）の子供たちの健康調査実施を求める要望書」を提出して来ました。

平泉町、一関市、花巻市、矢巾町、盛岡市の8市民団体などあわせて12名の方々にご参加いただき、平泉の子どもたちを守る会などの若いお母さん方お二人に、要望書読み上げと提出をしていただきました。

要望書には県内外72市民団体が賛同団体として名を連ねました。

受け取った野原勝・岩手県医療政策室室長は、要望1の尿検査の継続については前向きに検討します、との答えで手応えを感じましたが、要望2の子どもたちの甲状腺検査の実施については（すでに野原さんはこれで4度目の甲状腺検査要望書を受け取ったのですが）、「いろんなハードルはあるでしょうが、とにかく始めてください」とみんなで一生懸命お願いしたのですが、残念ながら前向きなお答えはいただけませんでした。

しかし、1か月後という今回の要望に対する県からの正式回答結果を確認したのちの、甲状腺検査実施に向けた新たな次なる一手を考えていきたいと思ひます。参加されたみなさんお忙しい中本当にありがとうございました。今後ともご協力をお願いします。

最新情報です！他県でも動きが出て参りました。

2013/09/18【下野新聞】「日光市、年明けに子どもの甲状腺検査」

http://www.47news.jp/localnews/tochigi/2013/09/post_20130918064901.html

子供の甲状腺検査を 市民活動健康調査を県に要望 4団体

岩手ホスピスの会など4団体は3日、県南3市町（一関市、奥州市、平泉町）の子供の健康調査を求める要望書を県に提出した。東京電力福島第1原発事故による放射線漏れに対する健康への影響が心配され、子供の尿中サンプリング調査の継続や甲状腺検査の実施を求めた。

要望したのは同会のほか、放射線から子供を守る岩手県南・宮城県北の会（一関市）、子どもたちの未来を考えよう平泉の会（平泉町）、三陸の海を放射線から守る岩手の会（盛岡市）の4団体で、県内外72の賛同団体が連名した。

要望項目は▽子供たちの尿中放射性物質サンプリング調査の継続実施とデータ公表▽国の放射能汚染状況重点調査区域となっている県南3市町の子供たちの甲状腺検査のフォローアップと2次検査の実施、健康影響に

関する調査拡大▽子供のがん予防の強化―の3点。

要望団体の関係者ら11人が県庁を訪れ、団体を代表して平泉町の千葉由香さんと葛西由利枝さんが要望書を読み上げ、県の野原勝医療政策室長に手渡した。野原室長は尿中放射性物質サンプリング調査の継続実施について「前向きに取り組みたい」と述べたが、甲状腺



県南の子供たちの健康調査を求める団体から要望書を受け取る野原医療政策室長（右）

検査には「今後の状況を踏まえ検討する」と明言を避けた。

盛岡市にある岩手ホスピスの会の川守田裕司代表は「現状は切迫している、とにかく子供に手を差し伸べる検査を始めてほしい。要望だけでなく、請願なども考えていきたい」と語っている。

栄養講座レシピ がん患者さんのための栄養講座 パート14

岩手県立胆沢病院 栄養サポートチーム 管理栄養士 蛇口 真理子

朝夕は、肌寒くなり秋らしい季節になりましたね。
今回は寒い日のティータイムにぴったりな「大学バナナ」を紹介します。
ごまの風味とバナナのコラボレーションがおいしいですよ (*^_^*)。

大学バナナ

1人分エネルギー 180 kcal

材 料	分量 (4人分)
バナナ	3本
砂糖	100g
水	50cc
黒ごま	大さじ1



作り方

- ① 小鍋にあめの材料を入れて中火にかけ、時々鍋を揺すって全体が茶色くなるまで焦がして火を止めすぐに熱湯大さじ2を加え、鍋を揺すって溶きのばす。
- ② 3cm 長さに切ったバナナを①に入れてからめ、オーブンペーパーにとって黒ごまを振る。

★ あめにバター大さじ1を加えると
キャラメル風味になりますよ。



参考文献「びっくりおやつ」 発行 主婦の友社

《がん患者さんのための栄養公開講座を終えて…》

8月に「がん患者さんのための栄養公開講座」を開催させて頂きました。

今年でこの公開講座も4年目になりました。今までは、化学療法中の副作用の食事や消化管術後の食事の工夫をお話してきましたが、今回は「緩和ケアと食事」をテーマにしました。

がんの患者さんの大半に食欲低下があるといわれていますが中でも緩和ケアの患者さんにとって、「食べること」は大変なことです。「栄養補給」だけに目を向けてしまうと食事本来の「味わう楽しみ」が無くなってしまいます。

がんの患者さんにはとって食事とは、①好きな物を味わう ②食卓を囲むことで家族や友人との交流の時間を持てる ③作ってくれた家族の愛情を感じることができる…等々、いろいろな役割があります。ご家族の方が一生懸命に作っても体調によっては、食べられないこともあるかもしれません。

そんなとき、「せっかく作ったのに…」とがっかりされるご家族の方もいらっしゃると思いますが、ご家族の「大切にしたい」という気持ちは患者さんを感じていると思います。

見守る気持ちで、「また体調がいい時にね」と患者さんへ伝えてあげると患者さんも安心すると思います。ご家族にとって日々の食事は身近なケアです。

これからも、機会がありましたら、患者さんやご家族の皆さんと「どんなお食事だったら患者さんが食べやすいかな？喜ぶかな？」ということと一緒に考えていきたいと思っています。

当日、足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。

ホスピス豆知識

ホスピス（緩和ケア病棟）は患者さんに心電図モニターをつけないところが大半です。モニターがあるとご家族がモニターの数値ばかり気にして、患者さんを見なくなるからです。モニターの数値や音を気にしないで患者さんとの時間をゆっくり過ごして頂くためです。

美山病院ホスピス（緩和ケア病棟）見学

7月27日に岩手県奥州市水沢区・美山病院ホスピス（緩和ケア病棟）の見学会を行いました。

同院は新幹線水沢江刺駅のすぐそばの小高い山上にあり、当日は病院長の及川司先生、ホスピス医の菊池俊弘先生、ホスピス病棟の佐藤裕子看護師長が迎えてくださいました。

同ホスピスは病室の窓から見える美しい景観を確保するため、5階と6階に10床ずつ病室を分けるという珍しい作りでした。

ちょうど先週、七夕（しちせき）の会と名付けられた、同ホスピスで亡くなられた方の遺族会が行われ、約20人が集まり故人の思い出を忍んだそうです。屋上にはボランティアさんと看護師さんで手入れをしている菜園があり、患者さんによっては症状が軽快すればいったん退院して自宅療養する場合も



窓からの美しい景観を大切にした病室

あり、そのようなときは訪問診療も行っているそうです。エンゼルケア（亡くなられた方を、人生の最期にふさわしい姿に整えるため、化粧を施



ホスピス内「ふれあいホール」にて。
ホスピス医 菊池先生（右端）、佐藤ホスピス看護師長（左端）

したり、闘病の跡や傷口をカバーしたりすること。亡くなられた方の尊厳を守る処置であるとともに、残された家族のグリーフワークの1つとして重視されつつある）にも力を入れているそうです。

今認知症の患者さんが増えており、そのような患者さんには看護側がつききりにならなければならない場合があり、認知症、脳腫瘍、意識のない方等の受け入れをどうするかが今後の課題ということでした。また、同院ではホスピス、緩和ケアについて地域の方々に知ってもらうため年2回の講演会を開催しているそうです。

社団医療法人敬愛会 美山病院緩和ケア病棟：岩手県奥州市水沢区羽田町字水無沢 495-2
電話 0197-24-2141 ☆緩和ケア病床 20 床／総病床 248 床 緩和ケア病棟開設：2011 年 4 月

書籍紹介

「もしも、がんが再発したら ～本人と家族に伝えたいこと～」

- 発行日：2012年3月10日
- 編集：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター
- 発行：英治出版株式会社
- 定価：750円

がんの再発は、計り知れない衝撃です。治癒を目指してきた患者さんにとって最初の癌の宣告を受けた以上に大きなショックを感じます。そのために今まで以上に多くのサポートを必要とします。この本は、再発がんの体験者と癌の専門家が集い、がんの再発という事態に直面した方に治療や行き方を決めていくお手伝いとしてつくられました。再発がんを体験した患者さんが知っていたことや考えたことについて、がんの専門家が患者さんに知ってほしいことについて、意見を出し合って一緒にまとめています。

また、本書はインターネットでも閲覧できます。

～本書より～



がん対策条例で要望 県議会に岩手ホスピスの会

岩手ホスピスの会 緩和ケアの推進など
(川守田裕司代表)は 7項目と、東日本大震災の被災地における医療体制の充実、福島第一原発事故による放射能汚染から子どもたちの健康を守るための健康調査に関する条例を推進することを要望書で提出した。

緩和ケア医療を推進するための支援策として▽がん診療連携拠点病院とそれ以外の医療機関との連携協力体制の強化▽専門知識・技能を持つ医療・福祉従事者の育成▽在宅での



がん対策に関する条例検討会の嵯峨巻副座長(左)に、要望書を手渡す岩手ホスピスの会の川守田裕司代表ら

要望書を受け取った嵯峨巻副座長は「できるだけ要望内容に沿った条例となるよう検討を進めたい」と話した。

日本医療政策機構・市民医療協議会「がん政策情報センター」のまとめでは、今年3月までに24府県が、がん対策に関する条例を施行した。川守田代表は「条例が制定されれば、予算も付きやすくなり、県の取り組みが具体化されることが期待される。岩手で条例が検討されていることも多くの県民に知ってもらいたい。がん患者の痛みに寄り添う体制が充実していったらいい」と願う。

盛岡タイムス 2013年9月6日

岩手県がん対策推進条例への要望

上記記事の通り、県議会のがん対策に関する条例検討会で現在策定作業中の「岩手県がん対策推進条例」に要望書を提出しました。要望内容は以下の通りです。

1. 岩手の緩和ケア医療の促進(この項目はぜひ一つの大きな項目として条文化をお願いします)
 - ①緩和ケア医療の推進のため、がん診療連携拠点病院等とそれ以外の医療機関との間の連携協力体制の強化に関する支援
 - ②緩和ケアに関する専門的知識及び技能を有する医療・福祉従事者の育成および確保並びに当該医療従事者に対する研修の機会の確保に関する支援
 - ③地域別の均衡に配慮した緩和ケアに係る病床の確保に関する支援
 - ④在宅での緩和ケア医療の推進に関する支援
 - ⑤緩和ケア医療の正しい理解と啓蒙の促進に関する支援
 - ⑥がん患者およびその家族の心身の不安・苦痛の軽減および療養生活の維持向上に関する支援(*がん情報の提供
*がん相談*がん患者サロン*がん患者および家族の就労継続に対する支援*患者団体が行う活動に対する支援)
 - ⑦その他緩和ケアの充実のために必要な施策
2. 当県の特性として、東日本大震災の被災地における医療体制の充実
 - ①特に被害の甚大な沿岸地域の仮設住宅住民等の医療体制に関する支援
 - ②その他被災地の医療体制充実のために必要な施策
3. 当県の特性として、福島第一原発事故による放射能汚染から、子どもたちの健康を守るための健康調査に関する支援
 - ①特に国の汚染状況重点調査地域となっている、県南3市町(一関市、奥州市、平泉町)の子どもたちの健康調査に関する支援
 - ②その他放射能汚染から子どもたちを守るために必要な施策

岩手県がん対策推進協議会委員委嘱について

がん医療の均てん及び水準の向上を図ることを目的にして、2007年9月に岩手県により設置された岩手県がん対策推進協議会に、第1回会議から患者団体として乳がん患者の会アイリスの会、がん患者と家族の会かたくりの会とともに当会も患者関係委員として参加して参りました。このたび「委員任期満了に伴い、今年9月から2015年8月31日までの委員を推薦してほしいとの打診があり、全役員と検討した結果、当会で引き続き委員として同会議に参加することを決めました。引き続きがん患者さんの代弁者として患者の立場から発言してまいりたいと思います。

タオル帽子を作りたい方へ



※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。

※型紙・見本の帽子1個(送料込み1,000円)

※申し込み方法：はがきかメールでお願いします。メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：031-0823 青森県八戸市湊高台 6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」

これからのタオル帽子講習会日程

10月12日：タオル帽子講習会・倶楽部

11月9日：タオル帽子講習会・倶楽部

12月14日：タオル帽子講習会・倶楽部

1月11日：タオル帽子講習会・倶楽部

場所：盛岡市総合福祉センター 開催時間：午後1時30分から 問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願います。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2013年7月～9月

- 7月 7日 ホスピスの会通信発送作業～第3回役員会 …………… (盛岡市総合福祉センター、10名)
- 7月 13日 タオル帽子倶楽部 …………… (総合福祉センター、27名)
- 7月 20日 被災地支援活動 …………… (陸前高田市上壺仮設住宅、高田第一中学校グラウンド、7名)
- 7月 27日 美山病院緩和ケア病棟(ホスピス) 見学会…………… (岩手県奥州市・同院、3名)
- 8月 6日 「がん対策に関する条例」検討会参加 …………… (岩手県議会会議室、2名)
- 8月 10日 タオル帽子倶楽部 …………… (総合福祉センター、20名)
- 8月 14日 FM横浜・音楽番組「Piano Winery ～響きのクラシック」出演 …… (東京都内、1名)
- 8月 24日 被災地支援活動 …………… (陸前高田市上壺仮設住宅、4名)
- 8月 31日 第4回役員会～がん患者さんのための栄養公開講座開催 … (総合福祉センター、38名)
- 9月 3日 岩手県に、県南3市町(一関市、奥州市、平泉町)の子供たちの健康調査実施を求める
要望書提出 …………… (岩手県庁、12名)
- 9月 4日 「がん対策に関する条例」検討会へ患者の立場から要望書提出 …… (岩手県議会、3名)
- 9月 7日 クリスマスに向け、タオル帽子発送準備作業…………… (総合福祉センター、20名)
- 9月 8日 対がん協会が開催する被災地支援活動にタオル帽子講習会講師として参加
…………… (宮城県気仙沼市五右衛門が原仮設住宅集会所、3名)
- 9月 14日 タオル帽子倶楽部 …………… (総合福祉センター、26名)
- 9月 15日 倉庫作業 …………… (盛岡市タオル帽子倉庫、6名)

今年度会費の納入をお願いいたします。

岩手ホスピスの会は皆さんの会費により運営されております。2013年度会費(2013年1月～2013年12月分)を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上振込をお願いいたします。なお、行き違いですすでにお支払いいただいております折は、なにとぞご容赦ください。また、ご住所の変更があった方はお手数ですがご連絡をお願いします。

会費：1,000円(複数口可) 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

なお、これまで2年間会費をご納入いただけなかった会員様には、今回振込書を同封させていただきました。大変恐縮ですが、今回お振込いただけない場合、次号から会報をお送りできなくなりますので、ぜひお振込をお願いいたします。

笑いの講座

演題：歴史の忘れもの

平成 25 年 10 月 26 日(土) 午後 1 時 30 分～

場所：盛岡市紺屋町勤労福祉会館

●入場無料



長い時が流れても
木々や花々はいつだつて
人に安らぎを贈ってくれる
あなたは気付いているだろうか
歴史の中にもそんな温かい
忘れ物があることを

今回の笑いの講座—私達の知らない楽しい話、不思議な話、失笑さそう話が歴史の中にありました。「え～、嘘！」と思うようなお話も、沢山出てきます。盛岡は南部の殿様の領地。庶民には伝わっていない、お話しの玉手箱を、午後の一時みなさんと共に楽しみたいと思います。

《講師》山田 公一氏（市民の歴史探究館代表）

盛岡観光コンベンション協会賛助会員・盛岡市上ノ橋町に単身赴任向け賃貸マンションを経営する傍ら、市民の歴史探究館を併設。資料館として解放し、盛岡の歴史を多くの市民に伝える役割を担っている。祖父は盛岡市長として戦前に2度在職。実に多くの人脈と又、膨大な資料を有し、郷土の発展のためにも歴史の探究を続けている。まさに温故知新の思いがあるように感じられる。

地域冊子他多数に寄稿、各方面からの講演依頼やトーク等、活躍なさっています。

主催：岩手ホスピスの会

020-0883

盛岡市志家町 13-31

●問合せ 090-2604-7918